

年明けということ、1月に聞こえる物の由来、期限等を載せてみました。(5年前に調べたものです)

### お年玉



#### 意味

お年玉とは、新年の祝いの贈り物。子供など目下の者へ与えるお金を言うことが多い。

#### 語源・由来

お年玉の「お」は接頭語。古くは正月行事として「歳神(としがみ)」を迎える祭りがあり、門松を立てて鏡餅を供えた。

お年玉の語源は、供えた餅をお下がりとして子供たちに食べさせ、御歳魂(おとしだま)と呼ばれたとする説がある。また、この餅は年初に分配されることから、年の初めの賜物(たまもの)で「年賜(としだま)」が変化した説や、鏡餅が丸いことから「お年玉」になったとする説があり、いずれも歳神に由来します。お年玉が金品を贈る言葉として用いられた例は、室町時代から見え始め、当時は茶碗や扇など様々な物が贈り物として用いられました。

### 御神籤(御御籤)

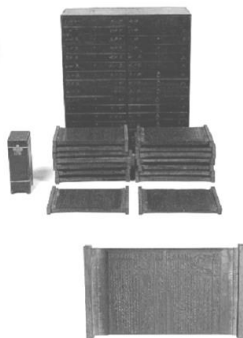
#### 意味

おみくじとは、神仏に祈って事の吉凶を占うための籤(くじ)。文字や符号などを記した紙片・紙繰り・木片などを引く。御御籤。オミクジ。

#### 語源・由来

おみくじの「お」は、「おみき」「おみこし」などと同じ接頭語で、「み」を「神」と書くのは当て字で、籤(くじ)の語源は、下記のように諸説があり、正確な語源は未詳です。

・くじは、串のような棒状の物を使うことが多いため、串が語源とする説。  
・くじは、箱などに入った物を引き当てることから、えぐって中の物を取り出す意味の「掘る(くじる)」が転じたとする説。  
・くじを神仏による審判と考え、訴訟や審理・裁判などを意味する「公事(くじ)」が転じたとする説。



右図は、永谷天満宮の別当であった貞昌院に伝わる江戸時代のおみくじです。もともと、1から4までの籤を三度引いて占ったものと考えられ、4の3乗=64通りの組合せがあります。天満宮六十四首歌占として、それぞれのおみくじに内容を表わした絵が描かれています。

### どんど焼き

#### 内容

「どんど焼き」とは小正月(こしょうがつ)1月15日(の行事で、正月の松飾り・注連縄(しめなわ)・書き初めなどを家々から持ち寄り、一箇所に積み上げて燃やすという、日本全国に伝わるお正月の火祭り行事で、神事から始まった行事です。

一般的には、田んぼや空き地に長い竹(おんべ)や木、藁(わら)、茅(かや)、杉の葉などで作ったやぐらや小屋(どんどや)を組み、正月飾り、書き初めで飾り付けをしたのちそれを燃やし、残り火で、柳の木や細い竹にさした団子、あるいは餅を焼いて食べるという内容で1月15日前後に各地で行われます。どんど焼きの火にあたり、焼いた団子を食べれば、その1年間健康でいられるなどの言い伝えもあり、無病息災・五穀豊穡(むびようそくさい・ごこくほうじょう)を祈る民間伝承行事です。

#### 語源

「どんど焼き」の語源については、火が燃えるのを「尊(とう)と(や)尊(とう)と」と囃(はや)し立てたことから、その囃し言葉が訛(なま)ったとうい説と、**ど**ん**ど**ん**燃**える**様**子からそれらの名称がついたという説があります。

※地方によって呼び名が「どんど」、「どんど」、「おんべ焼き」、「どんどろ祭り」、「おんべ焼き」、「さいとう焼き」、「ほっけんぎょう」、「三九郎焼き」、「ほじより」、「ほうじより」さいとう焼き「牙の神焼き」、**左義長(さぎちちょう)**など色々あります。

#### 起源

「どんど焼き」の別称として**左義長(さぎちちょう)**という呼び名があります。これがどんど焼きの起源とも関わっているといわれています。左義長(三稜杖)は、正月十五日、平安時代の宮中で、清涼殿の東庭で青竹を束ねて立て稜杖(ぎっちょう)三本を結び、その上に扇子や短冊などを添え、陰陽師(おんみょうじ)が謡いはやしながらかれを焼いたという行事です。それが民間に伝わりどんど焼きとなったといわれています。

